

転生者は努力して夢のような特性を得たようです

百聞一見

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

生まれ変わったら不思議な生き物に転生？憑依？してもうた！

ワイルドすぎるエリアで生き抜いた転生者は、とんでもない生き物として注目されることに！

目次

転生者は努力して夢のような特性を得たようです

— 1

転生者は努力して夢のような特性を得たようです

唐突ですが、オレは今ピンチです。

何がピンチかって言えば、話が長くなるし、誰にも理解されないだろう。第一オレ自身理解できていないし。

それでも心の中で叫ばずにはやっていけない。全速力で走りながらで良ければ聞いてくれ。そして叫ばせてくれ。

いつの間にか眼前には湖が広がっていて、右を向けば鋼鉄のガラスみたいな奴が空から襲い掛かってきたので、左を向いて全速力で逃げている所だ。

これを誰かが聞けば何言っているんだと思うだろう。俺だって解らないもん！

あのガラスもそうだけど、俺自身もどうなってんのコレ!?なんか視界が地面スレスレだし！シャカシャカって複数の足を動かしてるし！

とりあえず俺は虫っぽい何かになってて、あの鉄ガラスは俺を餌か何かと思って襲い掛かってるってのは解った！はい逃げようそうしよう！

プレッシャー半端ないよあの鉄ガラス！なに？俺G的な虫だから嫌ってんの!?

とにかく走れ俺！幸いにも足が速いから逃げ切れそう！

そうして無我夢中で走って暫く……走り続けるしか頭にないから脳内メモリに余裕あったのよ……逃げ切ってやったぜ。

いやふと振り向いたら居なくなってたんだけどね。諦めたんだろうか。俺が早かったのか長距離走ったのか知らんけど。

ほつと一息ついて辺りを見渡すと……うわあ増々わからん光景だこりゃ。

一見すると大自然広がる原っぱだけど、知らない生き物ばかりがそこに住み着いていた。

白黒模様のタヌキが走り回り、紫のカエルが二本足で草むらを歩

き、蝙蝠みたいなナニカが低空を飛ぶ。

なんか銅みたいなカラーリングした小象もいるし、悪そうな狐が我が物顔で練り歩いている。

動物ってというかモンスタースターっていうか、そんな不思議な生き物ばかり。

こそこそと物陰から観察して解ったが、小競り合い程度で殺伐とした感じはなさそう。平和万歳。

そして、もしかしなくても俺も彼らの仲間入りしているんだろうなあ……と思つて水面を見てみる。

揺らめく水面には、案の定虫っぽい何かになっている俺の姿が。これフナムシ？昔流行ったダイオウグゾクムシ？

とにかく虫っぽい生き物になったのは解つた……せめて哺乳類または鳥になりたかつたなあ……。

今になって思つたが、これって所謂転生つてやつ？それとも憑依？とにかくラノベみたいなの展開だな。

しかし実際にこうなると戸惑いと不安しか……いや弱気になるな俺！

見ろ、彼ら(?)の様を！二本足で歩くカエルとズボンずり下げトカゲが頭突きしあう程度の争いを！

きっと先ほどの鉄カラスは特別強い奴なんだろう！そしてそんな鉄カラスから逃げ切つた！

そうだ！俺は生きるんだ！新たな人生ならぬ虫生を歩むんだ！数ばかり増えて食われる生き物ではないのだよ！

そしてオレには元人間ならではの知恵というチートがある！ふははは知識の差とは時にチートとなり得るのだ！

——そんな時期が、着ぐるみみたいな巨大なクマと遭遇するまで俺にありました。

なにこここわい！かこくすぎわろえねえ！

あつち行けば番長みたいなパンダ！こつち行けばゴミみたいな怪

物！

日差しが強くなってドリル角の怪獣！雪が降って氷柱髭の白熊！湖には怖い顔した水龍！

一番怖かったのは、霧がかつてきたときにいつの間にか背後にいた、被り物してるナニカ……あれ絶対ヤバイ奴や。

鉄カラスなんて霞む程に強い奴ら多すぎい！逃げても無駄じゃんってぐらい！

話を通じるやつもいたけど、いずれも「俺が強いんやー」ってばかりに力をアピールしてくるのだ。脳筋か！

絡め手使ってきたり天候変えてきたりと、能力も様々。地面割れた時とか死ぬと本気で思った……。

このままじゃ駄目だオレ！知識チートも逃げ足も意味がないぞオレ！

こんな過酷な自然で逃げ続けるなんて無理だ！なら自分を変えるしかねえ！

手始めに鼻に襲われたところを助けてくれた銅象さん、あなたの舎弟的な何かにさせてくださいええ！いや後についていただけんですけどね！

見てろよワイルドなエリアよ！俺は強くなって見せる！自分を変えてみせるぞおおお！



「今だエースバーン！『かえんボール』！」

ナツクルシテイ眼前に広がるナツクル丘陵にて、一人の少年の指示を受けてエースバーンが跳躍、火炎の球を蹴りつける。

剛速球で迫る火炎の球を受け止めたダイオウドウだが、あまりの衝撃と熱に耐えきれず耐え切れず後ろへ倒れ込む。

少年の名はマサル。つい先日ガラル地方のチャンピオンになり

ながらも尚「自分なりの強さ」を追い求める若きトレーナーだ。

「いぞエースバーン！もう一度『かえんボール』！」

震えながらも立ち塞がる、圧倒的な力を持つて戦いを挑んだ強敵の意志の強さに敬意を表し、エースバーンに指示を下す。

力強い眼差しでダイオウドウを見つめていたエースバーンは、更に強くなると言わんばかりに、より高く跳躍する。

そこへ、水の塊が突っ込んできた。

「っ!? エースバーン、『まもる』！」

まだ火炎の球を生じていないのを瞬時に確認したマサルは、迫りくる水の塊への対応を命ずる。

咄嗟に火炎を発するためエネルギーを防御に転じ、水の塊を防ぐ。マサルの判断に感謝だ。

その水の塊の正体はグソクムシャだった。『アクアジェット』で水の弾丸と化して迫つたらしい。

『まもる』の防御エネルギーに弾き飛ばされたグソクムシャは、着地するエースバーンを睨みつつ、ダイオウドウの盾になるように立ち塞がる。

ダイオウドウはそのグソクムシャと知り合いなのだろうか？弱まっても向けていたはずの闘争心を抑え、グソクムシャに甘えて後退りしだした。

「このグソクムシャ……強いぞエースバーン」

トレーナーとしての才覚か、目の前のグソクムシャの大体の強さを察するマサル。エースバーンも感じたのか、いつも以上にフットワークを鋭くする。

グソクムシャがダイオウドウに振り向くと、ダイオウドウはグソクムシャを名残惜しそうに見つめた後、どすどすと逃げていった。「ここは俺がやる」と言うことだろうか。

グソクムシャは両腕を交差させ、ガチガチと音を鳴らして装甲を硬化させた。『てっぺき』である。

「エースバーン、『アクロバット』!」

防御を固める前に相性の良い飛行技をぶつける。文字通りアクロバットな動きを見せ、エースバーンの蹴りが炸裂。

交差させた両腕で受け止めるはずが僅かな隙を細い足がすり抜け顔面に命中。急所に当たった!

(倒せ……きれない!)

硬化させたのは腕だけではない。顔面で受け止めてよろめくも足はしかと大地を踏みつけていた。

(これじゃあ『ききかいひ』で逃げられ……っ?)

進化しても脱せぬコソクムシャの『にげごし』の名残であるグソクムシャの特性『ききかいひ』。

体力が半分を切ると途端に逃げ出す性質故に、折角の強敵に逃げられる……はずだった。

それどころか、グソクムシャは「いい加減にしろ!」と言わんばかりに顔面を突き出し、エースバーンを突き飛ばしたではないか。

(逃げないっ!?)

力強いグソクムシャの立ち振る舞いに驚愕するマサル。それはエースバーンも同じか着地の際に硬直してしまう。

今度はこちらの番だと両腕に水を纏わせて殴りにかかる。鈍足ながらも振るわれた『アクアブレイク』はエースバーンを水浸しにしなから吹き飛ばす。

「エースバーン!」

効果は抜群だ! 共に戦い抜きチャンピオンへと導いた歴戦の相棒が、一撃で地に伏せ目を回している。マサルは更なる驚愕を覚えた。

ボールに戻しながら「かかってこいや」と言わんばかりに『ちょうはつ』するグソクムシャを見て震える……これは武者震いだ。

「強い! やっぱりワイルドエリアは強いポケモンが多くて凄いや! いけえパルスワン!」

次に繰り出すのは、エースバーンの後輩にあたるパルスワン。陽気にワンと吠えるも、目の前で『ちょうはつ』しているグソクムシャを前に警戒心を露わにする。

『ほっぺすりすり!』

正面で無理なら絡め手で。接近に強いグソクムシヤだがパルスワンは臆さず接近し、見事なステップを見せつける。

グソクムシヤは慌てず水を纏った腕を振り、地面に突き刺し泥を広範囲にまき散らす。『マッドショット』だ。

本来なら特殊攻撃の弱いグソクムシヤだが、防御力がない上に電気タイプのパルスワンには効果は抜群。それでもパルスワンは泥の波を突き抜け、電流走る頬を押し付けることに成功した。

(……素早さが下がらないし、ダメージが多い?)

大ダメージを負っても役目を果たしたパルスワンを褒めるも、マサルは予想以上にダメージを受け素早さが低下していないパルスワンに違和感を覚えた。

その後はお察しの通り『アクアジェット』でトドメをさされた。2匹続けて倒れたことに危機感を覚えつつ、マサルはサーナイトを繰り出し『リフレクター』を指示する。伊達にチャンピオンやってない。

その後もマサルはグソクムシヤの行動を観察する。『アイアンヘッド』・『どくづき』・『ビルドアップ』『いわなだれ』……。

水タイプのジムリーダー・ルリナを始め多くのグソクムシヤを見てきた。しかし目の前のグソクムシヤはレベルの高さを差し引いても力強い印象を与える。

(まさか、このグソクムシヤ——)

——『ちからずく』の特性を持っている!?)

今度こそマサルは驚愕した。こんなことがあって良いのかと。

グソクムシヤのデメリットでもある特性『ききかいひ』。

それが、追加効果無くす代わりに威力を底上げする特性『ちからずく』に変わっているなんて……まさに夢の特性ではないか。

電流走るボロボロの体でサーナイトを屈し、勝鬨を上げるグソクムシヤ。よほど意地っ張りな性格なのだろう。

トレーナーとしての性が告げている……このグソクムシヤをゲツ

トしたいと!

気づけばマサルはハイパーボールを手に取り放って投げようとし……体の揺れを感じ取った。

地震にしては長いな……そう思っただけで周囲を見渡していると、あるものを目の当たりにして硬直する。

先ほどのダイオウドウが、沢山のヒポポタスを率いてやってくるではないか! 砂塵をまき散らす様はまさしく動く砂嵐!

「うわああああ!」

ゴウゴウと数の暴力で巻き送る砂嵐に耐え切れないと判断し、マサルはサーナイトをボールに戻してスタコラサツサ!

マサルは名残惜しそうに振り向く。

そこには「助かった……」と言わんばかりに膝を折るグソクムシヤの姿が、砂嵐の中に消えていった。



『大丈夫か?』

『いやー助かりましたわ。つえーもんあのニンゲンとポケモン達』

トレーナーという職に就いた人間はサイドン以上に強い奴もいる。

それが、この優しいダイオウドウ兄貴と共にワイルドエリアを生き抜いたオレが学んだ事の一つだ。

ヒポポタス達もありがとうよ。だから鼻から砂嵐をまき散らさないでくださいスリッパダメージで死んでしまいます。

『しかし無茶しないでくださいよアニキ。炎タイプ苦手なんだろう?』

『なあに、ワシも炎ぐらい克服したいと思っただけじゃ。どうかアニキはもうよさんか』

『いやいや、オレにとってアニキはアニキだぜ。このパワーもアニキを見て育った証よ』

ぶんぶんと片手を振ってパワーアピール。自分でも力持ちになっ

たなーって思うもん。努力万歳。

『しっかしあのエースバーン強かったのお。昔ワシにちよつかいかけてきたリザードンと同格ではないかの』

『うっそ、あの色黒少年のリザードン？よおっし一撃で倒したオレつえー』

『水タイプが炎タイプ圧倒して自慢するでないわい』

ドゴンって鼻先でげんこつされた。し、死ぬう……砂嵐のスリッパダメージでダメージは更に加速した！

厳しくも優しいダイオウドウ兄貴。他のポケモンと暮らしてたら別の強さを身に付けてただろうが、アニキについて行ってよかったと心から思うよ。

『それよりコブンとやらはどうしたんじゃ？ げきりんの湖におつたはずじゃし』

『アーマーガアからダイオウドウのアニキがピンチだって聞いて急いで駆け付けたんだよ。アイアント達はイエツサンの嬢ちゃんに預けた』

コソクムシャだったオレを追いかけた个体じゃないアーマーガアと、イエツサンの嬢ちゃんに感謝だな。

俺も立派なげきりんの湖の強者として君臨し、日々切磋琢磨の日々よ。そんなオレに憧れて舎弟となったアイアント達も、今や可愛い子分よ。

『んじやアニキも無事みたいだし、オレ帰るわ。ギャラドスと決闘の予定あんのよ』

『お前さんも随分な……えつと……はんどるじゃんみー、じゃな？』
『バトルジャンキーね』

相変わらず横文字に弱いよねアニキ。戦闘狂って言えばいいのに……別に戦闘にくるってないもん。喧嘩好きなだけだもん。

さあて、劇的ビフォーアフター的に生まれ変わった俺の第二の生活はこれからだ！

劇的といえば、怠け者だったアイアントの噛み癖がすげえことになったな……顎が頑丈なっただね。



この後、チャンピオンマサルはスマホロトムで「夢特性ちからずくのグソクムシャ見つけた!」と動画付きでコメント。

『ききかいひ』で逃げず圧倒的パワーで戦うグソクムシャの存在を知ったトレーナー達は、嘘本当関係なく大盛り上がり!

返信の中には『がんばりようあご』っぽいアイアントも見つけた「たー」とも書かれていることもあり、噂が噂を呼んでとんでもない事に。

「そうか……あのグソクムシャが……」

そんなコメントの嵐をスマホロトムで眺めながら、元チャンピオン・ダンテは笑みを浮かべる。

トレーナー時代、相棒リザードンと共に散々苦戦させられたあの圧倒的強者のグソクムシャの存在を思い返しなが……。

『なんか寒い』

『そりゃこおりのキバうけりゃな』

ギヤラドス同様ボロボロの状態で佇むグソクムシャは、そんなことを知らない。